

アブラハムと7人の子

アブラハムには 7人の子
一人はのっぽで あとはちび
みんな仲よく 暮らしてる
さあ おどりましょう

アブラハムは、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の聖典【旧約聖書】による民の始祖とされています。したがって、聖書の預言者アブラハムの宗教的伝統を受け継ぐユダヤ教、キリスト教、イスラム教の三宗教は、「アブラハムの宗教」と呼ばれています。

聖書には「旧約聖書」と「新約聖書」がありますが、「旧約」とは神との古い契約、「新約」とは、新しい契約という意味です。「旧約聖書」は、39 + α の書物の集合体であって、最も古い時期に書かれたと思われるのは、紀元前の7、8世紀。今から2700年から2800年ぐらい前です。最も新しいものは、紀元前160年くらいに書かれたという部分です。全体的には、紀元前4～5世紀に成立しました。ユダヤ教にとってはこれだけが「聖書」です。また、イスラム教においてもその一部（モーセ五書、詩篇）が啓典とされています。一方「新約聖書」は、ユダヤ教を母胎に生まれたキリスト教が生み出した書物で、「旧約聖書」は「新約聖書」の前提という位置付けとなっています。

さて話はアブラハムに戻ります。彼は、ノアの洪水後、神による人類救済の出発点として選ばれ祝福された最初の預言者となっていて、「信仰の父」とも呼ばれます。ユダヤ教の教義では全てのユダヤ人の、またイスラム教の教義では、ユダヤ人に加えて全てのアラブ人の系譜上の祖とされ、神の祝福も律法（戒律）も彼から始まっています。イスラム教ではイブラーヒームと呼ばれ、ノア、モーセ、イエス、ムハンマドと共に五大預言者のうちの一人とされます。また、キリスト教の正教会においてはアウラアムと称され、聖人に列せられています。

アブラハムには、正妻と側室、後妻の間に、（7人ではなく）8人の子がいました。彼は、イシュマエルとその母ハガルを荒野に追放していることから、「みんな仲良く暮らしてる」のは7人となります。ちなみにのっぽは既に成人のイサクで、あとのちび6人は10歳前後～幼児というところですよ。追放されたイシュマエルの子孫は、アラブ民族となってイスラム教が広がります。アブラハムは、アダムとエバ（人類の初代）から始まって、箱舟で有名なノア（3代目）を経て、6代目にあたります。イサク、ヤコブ（称号：イスラエル＝神の勝

者)と続く子孫には、モーセやダビデ、ソロモン、イエス(キリスト)などが挙げられます。

また、同じくアブラハムの子ヨセフは、兄弟の恨みからエジプトに奴隷として売られますが、その後、王の右の座につく宰相の地位にまで上り詰めました。そして、飢饉から身を寄せてきた兄弟と再会して、昔の蛮行を許します。一族は多産をもってイスラエルの民として、エジプトに繁栄をもたらします。しかし、エジプト王がヨセフの貢献を知らない代になると、これをよしとせず迫害や酷使が始まります。これらの経緯を経て、やがてモーゼの出エジプト、十戒、イスラエル建国へとつながります。ヨセフに続く子孫には、イスラエル最初の

王サウル、北イスラエル王国最初の王ヤロブアムなどが挙げられます。イスラエル王国は南のユダ国とに分裂し弱体化、内紛やアッシリアの侵攻によって紀元前722年に北王国が滅亡、南のユダ国も紀元前586年に新バビロニア王国によって滅びます。これによって、イスラエルの民(ユダヤ人)は、敵国の首都バビロンへ連行され捕囚となります。支配国は時代とともに目まぐるしく変われど、1948年5月14日再建国までの永き間、イスラエルの人々は放浪を余儀なくされてきたわけです。

以上の経緯は、全て旧約聖書に基づいたものです。旧約聖書は、冒頭の創世記において「天地創造」に始まり「アブラハム・イサク・ヤコブの3代の族長の物語」、出エジプト記の「モーセと律法」、レ



び記、民数記、申命記、列王記…などが続きます。この他にイザヤ書、エレミヤ書、エゼキエル書… など数々の大預言書、エレホセア書、ヨエル書、アモス書…など数々の小預言書が付属し、さらにと詩篇、雅歌などに多くの詩歌がまとめて編集されるようになりました。

しかたがい、旧約聖書は律法書、歴史書、預言書、知恵文学書等の集積を通して教義を説く書物と言えます。よって、聖書を読み解くことは、単なる宗教理解に留まらず、歴史、文化、律法、民俗、民族、文学、宗教、政治、哲学、倫理、心理、自然などを総合的あるいは有機的な見地に立って見通していくことにもなります。つまり聖書は信者の宗教書としてだけでなく、万人対象の教養書でもある訳です。

私達は、「戦争はいけない。平和が何より」と社会科や道徳の学習で力説します。しかし、聖書を通して3000年前に遡り、中東、イスラエルの変遷を見た時、そこには根深く複雑な民族的対立や迫害の歴史が繰り広げられてきたことを思い知らされます。そして、平和（みんな仲良く）は、私達が軽々口にする程、簡単なものではないことがわかります。「史実を知らずして、道理を説くなかれ」です。「アブラハムには7人の子 一人はのっぽであとはちび…」楽しく口ずさみ踊る歌にも、その一語（アブラハム）の歴史をたどれば、人々の悲哀や叡智、勇気が見えてきます。

エルサレムは、三つの宗教の聖地

☆ユダヤ教の聖地「嘆きの壁」

☆イスラム教の聖地「岩のドーム」

「アル=アクサー・モスク」

☆キリスト復活の地「聖墳墓教会」

* 東京ドーム4個分の敷地内に、この3つの建造物が建っている。

歴史と民族、信仰が絡むイスラエル・パレスチナ問題の複雑さが、ここにも伺える。

参考文献

「生きた水 イエスキリスト」 <http://ikitamizu.com/index.html>

宗教情報センター「世界の宗教」 <http://www.circam.jp/>

Wikipediaの各項目